

父 大澤壽人の思い出

大 澤 壽 文

本年、神戸女学院大学音楽学部創設一〇〇周年を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。そのようなお目出度い節目にあたり『学院史料』に父大澤壽人の思い出を記載させていただきますことは誠に光栄に存じております。父の思い出といいますが昭和二十八年、私が小学六年生の時に他界しましたので幼い時の曖昧な記憶しかなく、まとまった文にならない事をお断り申し上げます。

それでは、父の「好きだったもの」という事で思いつくままに記述してみます。

○子供（子煩悩）

父はとても子煩悩で特に私の妹（徳子）を大変可愛がりました。応接間で寝てしまった妹を起こさないようにそつと抱きかかえて子供部屋へ運び、そのまま朝まで一緒に寝込んだりしておりました。

私が学校から帰りますと父が仕事の休息時間だと言って私を自転車の後部座席に乗せ、そして荷物台にはフォーク・金鎚を入れ西宮浜の堤防によく連れて行ってくれました。そして持参の道具を使って堤防についている

「牡蠣」を割って食べたものです。当時の西宮の海はとても綺麗な海で「牡蠣」も大変美味しかった記憶があります。そしてその帰り道には必ず阪神西宮駅近くのお好み焼き屋さんに立ち寄り好物のお好み焼きを食べるのが定番になっておりました。

又仕事の合間には我が家の裏山に登り、打出浜の様子をみて白波が立っていなければこれも又自転車で釣りにも連れて行ってもらいました。

又殆ど週末には家族で三宮の行きつけのお寿司屋さん、中華料理店に出かけた記憶があります。

○パーティー

毎年神戸女学院の卒業生の方々を多勢自宅にお招きしてよく「鶏すきパーティー」をしておりました。お台所の裏で祖父が鶏を捌くのをいつも手伝っておりましたし、私も妹と共にパーティーに参加して楽しく過ごした事を思い出します。

又何かの節目の時は放送局の友人達、楽団関係者、音楽家の方々が集まり応接間でワイワイと楽しくパーティーをしており、そんな席にも必ず私と妹も参加しておりました。そしてその当時は珍しかったテープレコーダーでパーティーの様子を必ず録音し、お客様が帰られた後に聞き直して笑ったものです。そんな中、亡くなった昭和二十八年のお正月に催したパーティーを録音したテープが今でも残っており、その内容は凝ったもので五分のラジオ番組仕立て、オープニングテーマ音楽からスタートし、司会の方の紹介でゲストの方々の歌や演奏、楽しいトーク等が収録、その一部で父がABCラジオホームソングで作曲した「公孫樹のロンド」を自身のピアノ弾き語りで歌っており、それを聴きますと今でもその時の様子が目に浮かんできます。

○新しいもの

パーティーの時に使ったオープンリールのテープレコーダー（ソニーの前身、東京通信工業製）は当時一般には殆ど普及しておらず大変珍しいものだったようです。又小学生の私の為、当時誰も穿いていなかったデニムのGパンを買ってくれたり、折りたたみの自転車、何枚も重ねて聴けるEPレコード盤用の小型電蓄、日本に数少ない時計など等限りがない程です。

○カメラ

留学時代に手に入れたカメラ「ライカ」を愛用し、多くの写真を残しております。自宅のトイレを一部改装して自分の暗室を作り、現像から焼付けまで全て自分でやっております。帰国後は勿論のこと留学時代の写真も多く残っております。

○オーケストラの練習

自宅の応接間に何十人というメンバーが集まりよく練習をしておりました。練習時には表門を開放、ご近所の方々が庭のテラスへ自由に出入りし、気軽に練習を聴いて楽しんでいただいていたようで、今でもご近所の方が、あの当時は楽しく、素晴らしい時代だったとおっしゃっています。

○神戸女学院

教授をさせていただいておりました当時の写真を見ますと本当に楽しそうですし、当時の卒業生の方々のお話を聞きますと大変楽しい授業だったようで、正規の授業の合間には昭和十三年建築の夙川自宅に作った水洗トイレの使用法や留学時代のエピソードで盛り上がったようです。又、授業が終わりますと生徒さん達と西宮北口へ甘い物をよく食べに行ったそうです。

父が亡くなる前夜、病院で付き添っていた母からの「お父ちゃんが危ない！」との電話で急遽病院へ駆けつけますと病室から父の荒い呼吸音が聞こえ、部屋のベットの横で聞いた息使いが今でも私の耳の片隅に残っております。

以上とりとめのない文で、又この本にはふさわしくない内容になってしまいました事をお詫びし、父 大澤壽人の想い出を終わらせていただきます。

志半ばで逝ってしまい大変無念だったと思いますが、神戸女学院大学はじめ各方面の方々のお力添えで近年父の作品が取り上げられる場面が多くなり、父も喜んでいる事と思います。二〇〇七年は生誕一〇〇年を迎えます、父の作品が後世まで伝えられますことを願ってやみません。